

北栄町議会議長 津 川 俊 仁 様

北栄町議会広報広聴常任委員会 蓑原 美百合

議員派遣結果報告書

1	名 称	令和5年度町村議会広報クリニック
2	場 所	東京都千代田区 全国町村議員会館
3	期 間	令和5年8月28日（月）～29日（火）
4	内容・成果	対象：三重県～山口県の町村議会広報担当者（議員及び職員） 2つの分科会で研修（第2分科会に参加） 鳥取県北栄町、岩美町、日吉津村、伯耆町、日南町、 島根県奥出雲町、広島県海田町、三重県東員町 講師：文章コンサルティングファーム未来交創代表取締役 前田 安正氏 内容：「情報としてのことばを伝える」テーマで文章への向き合い方を中心に講義。 今、情報量は大量にある。長くて解らない文章はいらない。 文章は時間を節約できるツールである。 「一文は短く、気持ちの入ったことばを使う、自信を持って書く。無駄な言葉は全部削れ」 文章は読み手の行動を変化させる情報手段。 ここが疎かになると、機会損失を招き、ときに信頼を損なうことにもなりかねない。 読み手（第三者）に伝わる文章にするためには、誤解のない文章にする。事実関係を確認すること。文と文章の構造をしっかりとらせる。 第1部：ことばを情報に変える「読み手を意識して書く」 文章を書くということは、 第三者が読んで理解できる、「伝わる」文章にすること。 ではどう書けばよいか、5W1Hを考える。 4W1DにそれぞれWHYを問いかけ肉付けする。 第2部：わかりやすい文と文章の基本 「簡潔に情報を伝えるポイント」 ①文＝文法学上の一つの基本単位。 ②文章＝一つ以上の文が連なった言語作品。 ③文を直す＝主語と述語をしっかりと対応させる 読み手が理解しやすい文にする

		④文章を直す＝伝えるべきことを最初に出す 読み手の共感を引き出す 読ませること、スッと読んでサッと理解できる文章にして、読み手の負担を減らす。 文章構造のルール ①骨を書き、肉をつける→伝えるべきことを言い切る ②肉は脈でつなげる→次にその理由を重ねていく ③伝えたいことは前に出す→読み手に文の趣旨を明確にする 起承転結の考え方「文章の構成を考える」 起承転結を羅針盤とする。何文字で書けば良いか考える。 第3部：「議会だより」クリニック 「簡潔に情報を伝えるポイント」 各自治体の「議会だより」の紙面診断（広報クリニック）で、住民により読まれ、伝わる議会広報紙とするための検討課題や改善策の提案を受けました。 表紙：写真と文字分離させる。 議員の顔写真：話しかけて緊張をほぐしたり、動きや笑顔で撮る。 文字サイズ：小さいとシニア層は見づらい。 行間広げる。段数も検討する。 縦書きのときは、数字の区切り記号は不要。 写真の位置：対角線上に置く。 略号：ミニ解説をいれるようにする。 「文章を書く」ということについて、理論的に、具体的な説明でよく理解できた。すぐに使える実践的な内容で有意義だった。 研修で学んだことを活かして、「議会だより」が町民のみなさんにより伝わる様に努力していきたい。
	所感	

提出期限 令和5年9月11日（月）まで